

有機栽培茶に対応した病害虫管理技術

[研究のねらい]

- ・化学合成した農薬や肥料を使用しない有機栽培において、これに対応できる各種技術を組み合わせ、病害虫被害を低減させる防除体系を策定する。
- ・策定した体系管理による病害虫被害の低減及び収量確保を実証する。

[研究の成果]

- ・茶の有機栽培に対応した防除体系を策定した(図1)。
- ・2018年の防除実証はマシ油乳剤(2/8)、ハマキコン(4/13)、スピノースFL+銅水和剤(5/29及び8/3)、せん枝(6/28)で行い、チャノド・リトコバイと炭疽病以外は被害発生レベル(中発生)に達しなかった。
- ・チャノド・リトコバイは、二番茶摘採後のせん枝により発生密度が下がった(図2)。
- ・炭疽病の発病葉数は、せん枝の深さ(-45、-90mm)により効果が異なった(図3)。
- ・有機栽培移行3年目の収量は、通常施肥慣行防除と比べ一番茶で76~95%、二番茶で57~72%、秋整枝では51~69%であった(データ省略)。
- ・前年のせん枝が深いほど翌年の一番茶の収量が低下する傾向が見られた(データ省略)。

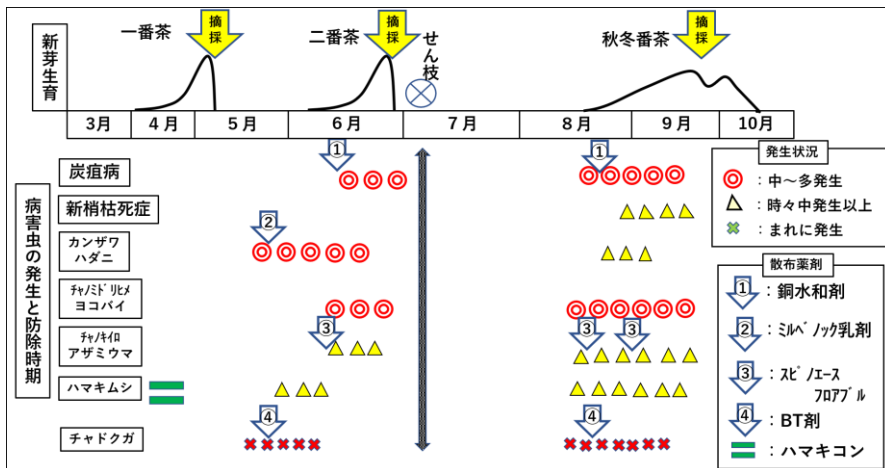


写真1 せん枝状況
二番茶摘採面から
最奥 せん枝なし
奥 -45mm
手前 -90mm

図1 有機栽培における体系防除案(平坦地向け)

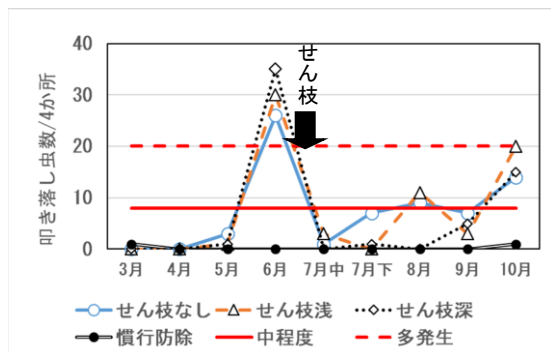


図2 チャノド・リトコバイの発生消長(2018年)

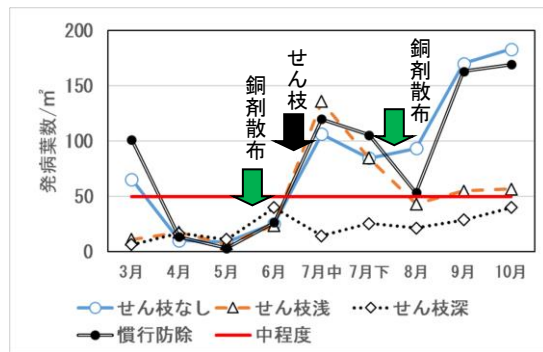


図3 炭疽病の発生消長(2018年)